

2008年度氷河情報センター分科会報告

雪氷研究大会（2008・東京）において氷河情報センターのオーガナイズドセッションおよび総会を開催した。オーガナイズドセッションでは、「ヒマラヤの氷河湖決壊洪水』として3件の講演と質疑応答，意見交換がなされた。引き続き行われた総会では，活動・会計報告，役員改選ならびに活動方針・予算案の承認，その他を行った。

日時：9月25日（水）13：00-15：00（総会14：30-15：00）

場所：東京大学工学部（2号館212講義室）

オーガナイズドセッション：ヒマラヤの氷河湖決壊洪水

最近ヒマラヤにおける氷河湖決壊洪水（GLOF）が，地球温暖化に伴う一つの象徴的な問題として，各種マスメディアに取り上げられ，以前にも増して社会的注目を集めている。そこで本オーガナイズドセッションでは、『ヒマラヤの氷河湖決壊洪水』と題し，まずヒマラヤのGLOFに関する研究経緯や社会’情勢，次に地盤工学的見地からの最新の研究成果と課題，さらに今後のGLOF対策に関する具体的な研究計画について，以下の3件の講演を企画した。

講演の内容は，最初にNPO法人雪氷ネットワークの山田知充氏に「ヒマラヤの氷河湖決壊洪水～昨今の社会情勢と今後の研究課題～」と題して，昨年来の氷河湖決壊洪水を巡るマスメディアや政府関係機関の動向と，実際のヒマラヤにあるイムジャ氷河湖のこれまでの研究成果と現況を説明していただいた。

次に日本大学工学部の梅村順氏に「氷河湖堰止めモレーンの地盤工学的性質とそれに基づく対策の課題」と題して，主に地盤工学的見地からの氷河湖決壊対策について分かりやすく説明いただいた。特に現地で実行・継続が可能なシステムとするため，自然エネルギーを利用した，高度な技術によらないシステム設計の必要性を強調された。

最後に名古屋大学大学院環境学研究科の西村浩一氏から「ブータンヒマラヤにおける氷河湖決壊洪水に関する研究計画」と題して，科学技術振興機構と国際協力機構のもとに実施予定の，ブータンヒマラヤでの氷河湖決壊洪水に関する研究計画を説明していただいた。本計画は今年度採択されたばかりで，未だ正式スタートの待機中であるものの，海外での調査研究の新しい形になることが予見された。

限られた時間内でのセッションではあったが，活発に質疑応答がなされた。氷河湖の実像解明の進展と現地での災害対策の進歩が予感されたセッションであった。

総会：

- 1) 2007-08年度活動報告
 1. 2008年度総会の開催
 2. 氷河情報センターニュースNo.30の編集・発行（「雪氷」70巻3号，387-391）
 3. オーガナイズドセッション（講演会）の企画
 4. BGR，モノグラフのバックナンバーのPDF公開作業完了
 5. 氷河情報センターHPの一部改訂
- 2) 2007年度会計報告
- 3) 役員改選（○：今回新任，他は継続）

センター長：幸島司郎（京大）

財務幹事：杉山 慎（北大低温研）

庶務幹事：○中澤文男（融合センター/極地研）

広報幹事：三宅隆之（極地研）・○岡本祥子（名大）・○津滝俊（北大）
- 4) 2008-09年度活動方針の承認
 1. 2009年度総会の開催
 2. 氷河情報センターニュースの編集・発行
 3. ミニシンポジウム開催の検討
 4. 氷河情報センターHPの改訂および充実
- 5) その他
分科会活動支援金の利用計画について

文責：

- 三宅隆之（国立極地研究所）
- 中澤文男（新領域融合研究センター/国立極地研究所）